



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部长 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	23,784	24.7	2,882	18.7	2,906	18.0	1,789	6.1
28年3月期第3四半期	19,078	11.1	2,428	53.9	2,463	54.1	1,686	79.0

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 1,807百万円 (7.7%) 28年3月期第3四半期 1,678百万円 (73.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	57.51	—
28年3月期第3四半期	54.20	—

(注) 当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、平成28年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
29年3月期第3四半期	18,837	—	11,956	—	63.5	384.21	—	
28年3月期	17,936	—	10,771	—	60.1	346.14	—	

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 11,956百万円 28年3月期 10,771百万円

(注) 当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、平成28年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
28年3月期	—	0.00	—	60.00	60.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、平成28年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。平成28年3月期については、株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,370	17.9	3,680	12.3	3,700	11.3	2,410	4.5	77.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結結果計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	31,121,520 株	28年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	1,625 株	28年3月期	1,605 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	31,119,909 株	28年3月期3Q	31,120,008 株

(注)当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、平成28年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。
そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」、「期中平均株式数」を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、国内市場の伸び悩みから、業態を越えた企業間競争は激化傾向にあります。また、消費マインドは、依然として節約志向が根強いものの、「ハレ・コト消費」傾向の顕著化など、消費の二極化がより鮮明になり、インバウンド動向においては、訪日外客数が大幅に伸びている一方で、高額品を中心としたインバウンド需要の減速が見られはじめるなど、消費環境は刻々変化している状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、前年度に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート宣言 (WSR) ～世界へ、ありえない驚きの、超感動を提供する～』の更なる推進を図るため、当年度は『WSR² (ダブルエスアール・ダブルエスアール)』を経営スローガンに掲げ、当面の重点施策でありますインバウンド対策の強化、海外展開、首都圏でのWSR展開の推進、プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成に注力いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、重点施策の遂行及び株式取得により平成28年2月から連結の範囲に含めました株式会社フランセが加わったことなどにより、23,784百万円（前年同期比24.7%増）となりました。利益面では、株式会社フランセの事業の特性による季節的な変動要因によるマイナス影響があった一方、増収効果に加え売上総利益率が前年同期に対し0.8ポイント増加したことなどにより、営業利益は2,882百万円（前年同期比18.7%増）、経常利益は2,906百万円（前年同期比18.0%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期は、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が一時的に低かったため、当第3四半期連結累計期間の税金負担が前年同期に比べて増加した結果、1,789百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

前連結会計年度中において行われた組織再編に伴い、従来、独立セグメントとしておりました「寿製菓」、「但馬寿」を統合し、「寿製菓・但馬寿」に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前年同四半期の算定方法につきましても当四半期の区分に組み替え後の数値に基づいて算定しております。

① ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、ハロウィン、クリスマスなど季節イベントにおける販促強化、国内国際線ターミナルでの拡販に注力したほか、海外展開では台湾、韓国に加え、香港、シンガポールなど新たな地域への進出に取り組みました。商品面では、主力商品「ドゥーブル・フロマージュ」、焼き菓子商品の「小樽色内通りフロマージュ」及び「ビスキュイ・オ・フロマージュ」の販売強化に注力いたしました。また、平成28年12月に札幌ステラプレイスセンターに「GLACIEL (グラッセル)」を、新千歳空港国内線ターミナルに「スーベルバーグ ルタオ ショコラティエ」をそれぞれ新規出店いたしました。その結果、売上高は、7,102百万円（前年同期比11.7%増）、営業利益は886百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

② 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、グループ各社及び代理店向けに焼き菓子を中心とした新商品及び主力商品などの提案営業を推進するとともに、地元山陰では発売50周年を迎える名菓「因幡の白うさぎ」及びモンド・セレクション6年連続最高金賞受賞の「白ウサギフィナンシェ」の販売強化、「遊月亭の黒豆茶」の通信販売などに注力いたしました。その結果、売上高は7,628百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益は1,034百万円（前年同期比43.5%増）となりました。

③ 販売子会社

販売子会社は、主力商品の拡販を中心に、東海地区では「小倉トーストラングドシャ」、福岡地区では「まっかな苺のラングドシャ」の販売強化を図り、関西地区ではインバウンド対策として関西国際空港を中心に「京都ヴェネト」及び「コンディトライ神戸」ブランドでの販売強化に努めました。その結果、売上高は3,897百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は319百万円（前年同期比13.0%増）となりました。

④ シュクレイ

シュクレイは、季節イベントにおける販促強化、期間限定出店の積極展開、交通機関チャンネルでの卸売を推進したほか、「東京ミルクチーズ工場」ブランドでの海外展開などに注力いたしました。店舗の出退店では、平成28年8月、「東京フィナンシェ」東京駅銘菓紀行店の閉店があった一方、新ブランドとして同年4月、東京・JR新宿駅南口NEWoman (ニューマン) に「Butter Butler (バターバター)」を、東京・南青山に「GENDY (ジェンディー)」をそれぞれ新規出店いたしました。また、同年7月には「ザ・メープルマニア」東京駅グランスタダイニング店の移転リニューアル、同年10月、ルミネ新宿店において「東京ミルクチーズ工場」のリニューアル及び「築地ちとせ」の新規出店を行いました。その結果、売上高は3,946百万円（前年同期比43.0%増）、営業利益は555百万円（前年同期比71.1%増）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、期初に発生した熊本地震の影響により落ち込んだ売上低迷を挽回すべく、発売65周年を迎えた「九十九島せんべい」の販売強化、フレンチトースト専門店「Ivorish (アイボリッシュ)」による期間限定出店の推進、また、平成28年11月、長崎駅隣接の商業施設アミュプラザ長崎に新ブランド「Sugarf (シュガーフ)」を新規出店したものの、テーマパーク及びグループ向け売上の減少も加わり苦戦いたしました。その結果、売上高は2,520百万円(前年同期比6.7%減)、営業損失は12百万円(前年同期は営業利益121百万円)となりました。

⑥ フランセ

フランセは、製造ラインの統合及びラングドシャラインの新設など工場改善に注力したほか、ブランドの再構築を図り、60周年を迎える「横濱フランセ」ブランドを一新し、新たに「フランセ」としてリニューアル、平成28年10月より新宿伊勢丹店及びラゾーナ川崎店の改装リニューアルを皮切りに、他店におきましても順次リブランド商品を投入いたしました。その結果、売上高は2,609百万円、営業損失は191百万円となりました。

⑦ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外(台湾)における菓子事業が含まれており、売上高は193百万円(前年同期比15.1%増)、営業損失は59百万円(前年同期は営業損失37百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、18,837百万円となり、前連結会計年度末に比べ900百万円増加いたしました。主な要因は受取手形及び売掛金の増加(986百万円)、機械装置及び運搬具(純額)の増加(165百万円)、流動資産におけるその他の増加(148百万円)、商品及び製品の増加(136百万円)、現金及び預金の減少(769百万円)などの要因によるものです。

負債は6,880百万円となり、前連結会計年度末に比べ284百万円減少いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加(388百万円)、流動負債におけるその他の増加(180百万円)、長期借入金の減少(263百万円)、賞与引当金の減少(226百万円)、短期借入金の減少(200百万円)、未払法人税等の減少(175百万円)などの要因によるものです。

純資産は11,956百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,184百万円増加いたしました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加(1,789百万円)、その他有価証券評価差額金の増加(18百万円)、配当金の支払いによる減少(622百万円)などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.4ポイント増加の63.5%となり、1株当たり純資産は384円21銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、前回公表数字(平成28年5月12日付「平成28年3月期決算短信」)から変更いたしておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更が、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,453,975	2,684,410
受取手形及び売掛金	3,222,671	4,208,913
商品及び製品	784,260	921,055
仕掛品	102,378	59,075
原材料及び貯蔵品	399,706	492,897
その他	567,348	715,451
貸倒引当金	△13,494	△6,300
流動資産合計	8,516,844	9,075,501
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,206,030	3,270,135
機械装置及び運搬具(純額)	1,291,109	1,456,861
工具、器具及び備品(純額)	316,277	379,048
土地	3,084,438	3,084,438
リース資産(純額)	12,552	9,377
建設仮勘定	5,967	116,152
有形固定資産合計	7,916,373	8,316,011
無形固定資産	103,840	95,115
投資その他の資産		
その他	1,426,846	1,376,332
貸倒引当金	△27,178	△25,866
投資その他の資産合計	1,399,668	1,350,466
固定資産合計	9,419,881	9,761,592
資産合計	17,936,725	18,837,093
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,051,729	1,440,600
短期借入金	720,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	385,202	370,392
未払法人税等	818,360	642,592
賞与引当金	520,876	294,720
ポイント引当金	17,468	22,769
その他	1,305,195	1,485,281
流動負債合計	4,818,830	4,776,354
固定負債		
長期借入金	1,072,912	809,111
退職給付に係る負債	1,024,802	1,097,800
その他	248,479	197,131
固定負債合計	2,346,193	2,104,042
負債合計	7,165,023	6,880,396

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	8,211,217	9,378,416
自己株式	△785	△835
株主資本合計	10,751,393	11,918,542
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,008	43,042
為替換算調整勘定	△4,699	△4,887
その他の包括利益累計額合計	20,309	38,155
純資産合計	10,771,702	11,956,697
負債純資産合計	17,936,725	18,837,093

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	19,078,219	23,784,993
売上原価	8,614,518	10,560,880
売上総利益	10,463,701	13,224,113
販売費及び一般管理費	8,034,907	10,341,722
営業利益	2,428,794	2,882,391
営業外収益		
受取利息	429	532
受取配当金	3,588	4,163
受取地代家賃	13,739	14,132
受取補償金	7,581	—
その他	26,454	24,335
営業外収益合計	51,791	43,162
営業外費用		
支払利息	10,259	9,089
持分法による投資損失	—	1,021
その他	6,850	8,640
営業外費用合計	17,109	18,750
経常利益	2,463,476	2,906,803
特別利益		
固定資産売却益	525	513
投資有価証券売却益	1,809	—
特別利益合計	2,334	513
特別損失		
固定資産売却損	2,144	409
固定資産除却損	12,055	15,429
投資有価証券売却損	—	29,342
減損損失	8,698	—
特別損失合計	22,897	45,180
税金等調整前四半期純利益	2,442,913	2,862,136
法人税等	756,168	1,072,539
四半期純利益	1,686,745	1,789,597
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,686,745	1,789,597

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	1,686,745	1,789,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,653	18,034
為替換算調整勘定	2,131	△906
持分法適用会社に対する持分相当額	—	718
その他の包括利益合計	△8,522	17,846
四半期包括利益	1,678,223	1,807,443
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,678,223	1,807,443

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシー シー	寿製菓・但 馬寿	販売子会社	シュクレイ	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	5,567,108	4,400,559	3,758,662	2,760,039	2,424,368	18,910,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高	790,929	2,638,945	3,698	—	278,484	3,712,056
計	6,358,037	7,039,504	3,762,360	2,760,039	2,702,852	22,622,792
セグメント利益 (△は損失)	776,718	720,393	282,908	324,678	121,887	2,226,584

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	167,483	19,078,219	—	19,078,219
セグメント間の内部 売上高又は振替高	989	3,713,045	△3,713,045	—
計	168,472	22,791,264	△3,713,045	19,078,219
セグメント利益 (△は損失)	△37,200	2,189,384	239,410	2,428,794

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額239,410千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額688,306千円、セグメント間取引消去額13,614千円、たな卸資産の調整額△41,140千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△421,370千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「九十九島グループ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は8,698千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓・但 馬寿	販売子会社	シュクレイ	九十九島 グループ	フランセ	計
売上高							
外部顧客への売上高	6,325,690	4,652,350	3,884,320	3,941,670	2,296,763	2,490,845	23,591,638
セグメント間の内部 売上高又は振替高	777,200	2,976,541	12,810	5,295	223,975	118,810	4,114,631
計	7,102,890	7,628,891	3,897,130	3,946,965	2,520,738	2,609,655	27,706,269
セグメント利益 (△は損失)	886,543	1,034,117	319,550	555,503	△12,099	△191,350	2,592,264

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	193,355	23,784,993	—	23,784,993
セグメント間の内部 売上高又は振替高	551	4,115,182	△4,115,182	—
計	193,906	27,900,175	△4,115,182	23,784,993
セグメント利益 (△は損失)	△59,084	2,533,180	349,211	2,882,391

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額349,211千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額803,910千円、セグメント間取引消去額16,944千円、たな卸資産の調整額△42,355千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△429,288千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

前連結会計年度中において行われた組織再編に伴い、従来、独立セグメントとしておりました「寿製菓」、「但馬寿」を統合し、「寿製菓・但馬寿」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。